

CTC未来財団

年次報告書

令和7年度(2025年度) / 第8期



次世代のための財団

CTC 未来財団

この法人は、明日を変える IT の可能性に挑み、持続可能な夢のある豊かな社会の実現に貢献する「次世代の育成支援」を目的として、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（略称「CTC」）が設立者となり、2019年10月1日に設立されました。2021年3月1日に公益認定を受け、公益財団法人として公益目的事業に取り組んでおります。

第8期は、公益目的事業である「児童・青少年に対する IT 教育の支援事業」、「IT を志す青少年に対する修学支援事業」、「障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業」において、島しょ部を含む地方でのプログラミングワークショップの開催、中高生向けのデータ活用をテーマにした情報系教材の開発及び授業の開催、卒業生を含めた奨学生交流会の実施、奨学生によるボランティア活動への参加など、コミュニケーションを活発化することにより、交流の機会が広がりました。また、IT 教育に関する事例紹介、助成金給付先の研究結果報告を財団ホームページに公開し、広く情報発信を行うことで広報活動にも力を入れてまいりました。

事業の概要



1 児童・青少年に対する IT 教育の支援事業

次世代を担う児童・青少年対象の事業です。プログラミング教材の無料貸出やプログラミングワークショップ、デジタルアートワークショップなどを企画・開催しています。



クレジットカード不正利用検知の授業風景

① 中高校生向け教材の開発及び支援

中学・高校で必修化された「情報」科目に対応し、情報教育をより身近に、そして実践的に学ぶ機会を提供することを目指し、2025年度に授業コンテンツを開発しました。「mirai創造ラボ」と総称し、次の3つのコンテンツで構成しています。

- 1) 「デタカツ Education版」：
カードゲーム形式でデータ活用リテラシーを学ぶ
- 2) 「クレジットカード不正利用検知」：
Excelを駆使し不正を見つけ出す
- 3) 「生成AI基礎講座」：
AIの仕組みや活用方法を学ぶ

早稲田大阪高等学校では、データ活用に関する2つの授業を開催しました。「クレジットカードの不正利用検知」の授業では、カードの利用場所から自宅までの距離、購買金額など、生徒達がExcelで様々な条件を設定し、実際のカード利用データを使って不正利用を暴くルールを考えました。「生成AI基礎講座」では、AIの進化の歴史や仕組みの概要を学び、タブレットやPCで生成AIを使って「私の学校の魅力を伝えるPRポスター案」作りのグループワークに挑戦しました。



生成AIを使ってPRポスター案を作成



カードゲームで企業のデータ活用を体験

栄光学園中学高等学校では、「クレジットカード不正利用検知」と「デタカツ Education版」の授業を行いました。「デタカツ」は、企業がより多くの収益を目指して成長するためにはデータの活用が重要であることをカードゲームを通して学ぶ授業です。5人1組でひとつの企業になりきり、カードに書かれているデータ活用のどれを実行するかチームで考え、取捨選択し、会社の成長を目指します。

「mirai創造ラボ」が扱う“データ活用・セキュリティ・生成AI”の3教材は、学校で習う事柄の先にある「社会で活用されている実態」を学ぶ点に大きな価値があると感じています。学校でなぜデータやAIを学ぶのかを実感できる教材で、学校教育と実社会をつなぐ重要な役割を担っていると思います。しかも企業の第一線で活躍するITエンジニアが中高校生向けに“本物”をわかりやすく落とし込んでおり、ほかにない魅力を備えた教材です。



国立大学法人宮城教育大学 名誉教授
広島工業大学 情報学部
情報システム学科 教授
安藤 明伸氏

② 論理的思考とチームワークを育む教材貸出事業

「みんなでチャレンジ！ ITエンジニア」（通称「みんなチャレ」）の活用事例をWebに公開すると共に、全国の小学校に案内を行い、38校に教材貸出を実施しました。

愛知県半田市では、ICT支援員の方々を通じて複数の小学校でみんなチャレを活用しています。利用実績は2022年から2025年で延べ18校になりました。総合的な学習の時間や社会科で使う学校が多いなか、半田市立宮池小学校では英語の授業で使用し、英語専科の先生とICT支援員が協働して授業を行っています。ロボットを動かして、観光ルートをどのくらいの時間で回れたか、英語で質問して英語で答える学習を行いました。



みんなチャレを使った英語の授業の様子



タブレット端末を使ってプログラミングに挑戦

③ ビジュアルプログラミングによる創作意欲を育むワークショップ事業

Scratchを活用したオリジナルのクイズゲーム教材を用い、児童向けの対面型プログラミングワークショップを実施しました。2025年度は、6月に愛媛県今治市、8月に徳島県鳴門市、10月に三重県多気郡、12月に兵庫県南あわじ市で計6回のワークショップを行い、55名の子ども達がプログラミングを体験しました。放課後の子ども達の居場所施設を会場にして、子どもの人数が5～15名程度の小規模かつ関東近郊以外の四国や兵庫県の島しょ部を対象にプログラミング体験の機会を届けました。



④ 論理的思考と情報科学を学ぶ カード教材の無償配布事業

一般社団法人情報オリンピック日本委員会（JCIOI）ジュニア部会和協働し制作した、「ビーバーチャレンジ学習カード」(小学1-4年生向け40枚、小学4-6年生向け28枚)を1セットとして、2022年9月より無償配布しています。2025年度は735セット（PDF:93件）を配布し、累計配布数は2,369セットになりました。教材活用の事例をWebにて公開しています。



ビーバーチャレンジ学習カード

⑤ IT 端末で創り出す デジタルアートワークショップ

多岐にわたる情報技術の活用を実感してもらい、新たな興味関心を引き起こす体験機会を創出することを目的に、デジタルアートワークショップを実施しています。2025年度は千葉県南房総市立富山中学校で実施しました。美術の授業で、タブレットを用いて線画に彩色するデジタルアートに、1年生29名が挑戦しました。生徒達は4種類の線画からひとつを選んで作品づくりに取り組み、代表10名が作品発表を行いました。



作品づくりに熱心に取り組む生徒達



作品発表の様子

2 ITを志す青少年に対する 修学支援事業

対象大学に修学している青少年に対する
返済不要の給付型奨学金です。

① 新規奨学生の採用

2025年度対象大学50校（国公立大37校、私立大13校）を選定し、ホームページに告知掲載、大学を通して新規奨学生を募集し、選考委員会を経て新規奨学生20名を理事会決定しました。返済不要の給付金として月額6万円（最長4年間、3年次編入者は2年間）を支給しています。

② 奨学生交流会の実施

2025年度は対面（オンライン併用）での交流会を8月と11月の2回開催し、66名の奨学生及び16名の卒業生に案内を行いました。

8月は、新奨学生の紹介に加え、在學生、卒業生との交流を実施すると共に、CTCによる講演及びワークショップを行い、37名の奨学生と6名の卒業生が参加しました。

11月は大学では学ぶ機会の少ない職業適性などに関する講演をCTCが実施し、講演後には講師に個別で話を聞きに行く学生の姿が見られ、関心の高い内容となりました。26名の奨学生と2名の卒業生が参加しました。



交流会でワークに取り組む奨学生



奨学生と卒業生含め参加者全員で記念撮影

③ ボランティア活動

毎日新聞社主催「学びのフェス2026春」に「プログラミングワークショップ」を出展しました。当日は、当財団の奨学生ボランティア募集に応じた有志学生が参加し、ワークショップの司会進行と共に、総勢29名の新小学2年、3年生達の活動を支援しました。



学生ボランティアのみなさんと事務局



左から、学生ボランティアの
高塚さん、多田さん、久保さん

子ども達の「学ぼうとする姿勢」がとても素晴らしいと感じました。自分もその気持ちを失ったわけではありませんが、純粹無垢に興味を示す姿勢には、改めて学ぶべきものがあると感じました。(名古屋大学 2025年度卒業 高塚 朝陽さん)

学びのフェスでの活動は塾講師などのアルバイトをしていない自分にとって子ども達の試行錯誤や、理解した瞬間に立ち会える貴重な機会となっており、やりがいや楽しさを感じています。(慶應義塾大学2年 奨学生 多田 颯太郎さん)

以前からこのボランティア活動に関心を持っていましたが、部活動と日程が合わずにいました。今回、やっと日程が合い参加することができました。今後も参加したいと思います。(慶應義塾大学3年 奨学生 久保 輝明さん)



子ども達に寄り添いしっかりサポート

3

障がいのある青少年に対する 修学及び就労機会創出の支援事業



障がいのある青少年の修学及び就労機会創出に必要な情報技術（IT）を活用した各種対応に取り組む大学、高等専門学校、高等学校、専修学校、各種学校に対して助成金支援を行うものです。2025年度はIT機器等の購入や研究・開発に対し、以下の20大学等へ助成金を給付しました。助成総額は、19,394,733円でした。以下、障がい表記については大学等各団体の表記を使用

2025年度助成事業 備品・アプリケーション購入・設備

団体名	申請備品等
岩手県立花巻清風支援学校	レーザー加工機
千葉県立特別支援学校 市川大野高等学園	4K大型ディスプレイ、ディスプレイスタンド等
国立大学法人三重大学 教育推進・学生支援機構 障害学生支援部門	災害時避難器具（イーバック+チェア、担架、エアーストレッチャー、スロープ）、ポータブル電源
学校法人専修大学 石巻専修大学 学生保健支援センター	デジタル耳せん
学校法人名城大学 名城大学障がい学生支援センター	上肢装具「MOMOプライム」
国立大学法人東京科学大学 大岡山学生支援センター バリアフリー支援室	カムダウンスペース、関連備品等
学校法人戸板学園 戸板女子短期大学	文字起こしソフトウェア「UDトーク」、字幕自動生成アプリ「Vrew」、ノートパソコン、タブレット、音声認識マイク
千葉県立つくし特別支援学校	授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」、大型液晶ディスプレイ
長崎県公立大学法人長崎県立大学	字幕表示システム「Cotopat Screen」一式
学校法人東海大学	移動式階段昇降機
国立大学法人高知大学	VRコンテンツサービス「JOLLYGOOD+」一式、タブレット
国立大学法人徳島大学 キャンパスライフ健康支援センター アクセシビリティ支援室	補聴援助用機器（ロジャー、スピーカーフォン、ヘッドフォン、マイクロホン等）、音声認識アプリ等
国立大学法人宮崎大学	音声読み上げアプリ「PC-Talker Neo Plus」
学校法人濱名山手学院 関西国際大学	補聴援助システム「ロジャー」一式
学校法人金城学院 金城学院大学 学生支援部 学生サポートセンター	車椅子用スロープ

2025 年度助成事業 研究・開発

団体名	研究テーマ
学校法人大谷学園 大阪大谷大学	高等教育へのアクセス保障に向けた情報基盤整備 —障害学生支援窓口とバリアフリーマップのWEBアーカイブ構築—
国立大学法人熊本大学 保健センター	発達障害学生のタスク達成を支援する報酬型アプリの開発と 行動変容メカニズムの検証
特定非営利活動法人響愛学園	骨伝導聴覚機器による障害児童の聴覚認知向上と社会参加の促進
国立大学法人九州工業大学	障害学生の研究室受け入れと研究室適応支援に関する探索的研究
国立大学法人静岡大学	多様なニーズに応える学生主体のキャンパスライフ支援アプリ開発

2022-2023 年度助成事業 研究・開発報告

2022.10-2025.9

視覚障がいをもつ理工系大学・大学院生用の 最新 ICT 技術を活用した教材の開発

特定非営利活動法人支援技術開発機構 研究開発部顧問 釜江 常好
共同研究者：(株)クリエイトシステム開発 小出 富夫, 山形大学理学部 教授
中森 健之, 山形大学理学部 佐々木 大翔, 青森大学東京分校 呂 沛珂



LaTeX早見表

2023.10-2025.10

発達障害のある大学生の課題遂行を支援するアプリケーション開発

国立大学法人大阪大学 ウェルネス推進機構 健康支援相談センター
特任助教 前田 由貴子



アプリ画面



上記2団体の研究・開発の報告内容については
こちらのQRコードよりご参照ください。



備品・アプリケーション購入の事例

聴覚障がい学生に対する安定した情報保障

学校法人駒澤大学

駒澤大学では、当財団の「障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業」の第7期（2024年度）助成金を利用し、聴覚障がい学生の情報保障と学生ボランティア（ピアサポーター）育成のための機材を拡充しました。聴覚障がい学生の増加による補聴機材の不足や授業形態の多様化に対応すると共に、十分なスキルを持ったピアサポーターの養成と確保を通じて、情報保障の安定と向上を目指しています。

ピアサポーターは、講義内容や質疑応答、教室の雰囲気も含めた情報を、リアルタイムに文字で伝えるPCノートテイクを中心とした支援活動を行っています。今回の機材拡充によって聴覚障がい学生とピアサポーターの専用ネットワークが用意され、安定した情報保障が提供できるようになりました。また、PCノートテイクのスキルアップを目的とした練習会でも、動画教材を使った練習や外部講師のオンラインによる技術指導などがスムーズに行えるようになりました。



PCノートテイクの練習を行う様子



法学部法律学科4年
日野 祐介さん

PCノートテイクは、授業の場の雰囲気もいかに文字の情報で伝えるかが大事になってくる活動です。よく冗談を言う先生の授業では、その冗談も文字で工夫して伝えます。利用者の方に笑ってもらえたときには、「この雰囲気を感じてもらった」、「ちゃんと伝わった」と、とても嬉しい気持ちになります。

障がいなどの違いがあっても、他の学生と何も変わることはありません。同じタイミングで共感できることが大切だと思って、ピアサポーターの活動を続けています。たくさんコミュニケーションを取って楽しみながら仲間として、一緒に学生生活を送れたらいいなと思っています。

※ 所属・学年はインタビュー当時のものです。



文学部英米文学科2年
金城 妃那子さん

寄附者一覧

2025年度(2025年4月1日～2026年3月31日)の法人寄附は2社、計145,185,000円、個人寄附は70名、計1,825,085円、総額147,010,085円となりました。(敬称略・順不同)

法人

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
CTCひなり株式会社

個人

岡田 鈴菜	福澤 有太	松元 康洋
笹田 亘	今川 聖	平山 伸一
重藤 倫	阿部 健太郎	芝 美和子
佐伯 和彦	河村 修	谷口 康洋
下地 俊一	内田 学	原田 和男
中川 裕路	芝田 安希	坂口 凱
堀 収大	柘植 一郎	渡邊 香織
橋本 雅史	山本 昌弘	村本 丈始
菊地 哲	向井 優美	對馬 正浩
増田 和了	松元 絹佳	田上 俊輔
塩井 孝夫	林 伸光	上神谷 彰克
町田 達輝	伊庭 勇治	安藤 明伸
中島 淑乃	松島 泰	
匿名希望	32名	



評議員・役員

代表理事	清水 茂	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 元常勤監査役
理事	安藤 明伸	国立大学法人宮城教育大学 名誉教授 広島工業大学 情報学部 情報システム学科 教授
理事	岸田 ひろ実	カウンセラー
評議員	竹内 薫	サイエンス作家
評議員	野村 晋右	野村総合法律事務所 弁護士
評議員	垣見 俊之	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 常務執行役員
監事	田村 裕之	



公益財団法人 CTC未来財団

〒105-6909
東京都港区虎ノ門4-1-1
神谷町トラストタワー
mirai-zaidan.or.jp
office@mirai-zaidan.or.jp
03-6450-1540



寄附についてはこちらから

